



2019・3・1

第 331 号

101-0065 東京都千代田区
西神田 2-5-7 神田中央ビル 303

TEL 03-3221-5075

FAX 03-3221-5076

今国会で改憲発議許さず参院選で少数派に

**安倍改憲 NO! の 3000 万
署名を達成し、5月3日に
全国津々浦々で総決起を!**

2019年2月22日 九条の会

3000 万署名を中心とした市民の頑張り、野党の奮闘によって、自民党は 2018 年の通常国会でも臨時国会でも、改憲発議はおろか自民党改憲案の審議にすら入れませんでした。けれども、安倍首相は改憲をあきらめてはいません。去る 2 月 10 日の自民党大会において挨拶にたった安倍首相は「9 条に自衛隊を明記し違憲論争に終止符を打とう」と改憲の決意を改めて表明するとともに、その焦点があくまでも 9 条にあることを強調しました。九条の会、市民アクションをはじめとする市民の草の根のとりくみに対抗し、改憲発議・国民投票を見据えて、自民党は 289 の全小選挙区で改憲推進本部の設立を急がせています。

安倍政権は、同時に、9 条改憲を先取りする実質的な憲法破壊を強引に推し進めています。昨年 12 月、安倍政権は、13 年の改訂以後 5 年しかたっていない「防衛計画大綱」の再改訂に踏みきりました。新大綱は、

「専守防衛」を堅持するといいいながら、「これまでに直面したことのない安全保障環境の現実」を口実に「従来の延長線上ではない」「従来とは抜本的に異なる速度で」軍事力強化を図るとくり返し、事実上他国に侵攻できる軍隊化を進める方向を打ち出しました。それは、15 年日米ガイドライン、戦争法を具体化し、日米同盟を「インド太平洋地域、さらには国際社会の平和と安定、繁栄に大きな役割」を果たすよう拡張・強化しようというアメリカの戦略に呼応するものです。沖縄県民の度重なる声を無視して辺野古新基地建設を強行し、また西南諸島への自衛隊配備を急ぐのも、アメリカの新戦略に呼応したものです。

安倍政権のめざす 9 条改憲は、こうした軍事化の前に立ちはだかる憲法上の障害を取り除き、軍事大国化をいっそう加速させようという企てに他なりません。こうして、2019 年は、憲法をめぐる正念場の年となりました。

9 条改憲を強行するために、安倍自民党は、19 年通常国会で自民党の改憲案を提示し改憲発議に持ち込むことを狙っており、

それが間に合わないときにも、参院選で再び改憲勢力3分の2の議席を確保して、何が何でも改憲発議、国民投票を強行しようとならっています。

しかし、こうした安倍自民党の改憲の企みを阻むことは可能です。通常国会での改憲発議を絶対に許さない、そして参院選で改憲勢力3分の2を許さないことで、安倍改憲に終止符を打つことができます。それには、発議を許さず選挙で改憲勢力を打ち破る立憲野党の共闘と頑張り、9条改憲は絶対に許さないという市民の運動、この2つの力が不可欠です。

九条の会も参加して取り組んでいる3000万人署名をなんとしても成功させましょう。全ての地域、職場、学園であらためて目標を確認し、地域に入ってさらに多くの市民に声をあげてもらいましょう。

19年5月3日の前後には、すでに各地で憲法集会在が企画されています。今年の5月3日を、市民がこぞって署名を持ち寄り、安倍改憲NO!の声をあげる総決起の日にしようではありませんか。

東海道53次で一斉アピールへ

【新聞OB「九条の会」】 安倍晋三首相は2018年中の改憲発議を目指していましたが、全国の九条の会などの国民運動で今のところ改憲発議を許していません。しかし、2月10日開催された自民党大会では安倍首相の改憲への隠しきれない執着を読み取ることができました。

新聞OB「九条の会」は4月の統一地方選、引き続き7月の参院選で改憲勢力を後退させ、安倍政権に「改憲NO!」の民意

<好評発売中ブックレット>

新防衛計画大綱と憲法第9条

ごあいさつ 小森 陽一

「防衛計画大綱」改定の現実とは

大内 要三

安倍9条改憲発議を阻止するたたかい

高田 健

ブックレット発行のあとがき

小沢 隆一

<資料>「防衛計画大綱」(抜粋)

*A5判64ページ

*定価 400円(10部以上割引あり)別

お申し込みは九条の会事務局へ

を突きつけることが重要だと考えます。

そのためには「戦争する国ゴメン! 政治を変えよう」のいっせい行動に参加することが重要です。このたびマスコミ九条の会が呼びかけた「東海道五十三次いっせいアピール」はまたたくまに東海道五十三次の各九条の会へと広がり、一斉に立ち上がります。

九条の会東京連絡会がまず呼びかけに賛同、東海道五十三次の最初の出発点の日本橋と2番目の品川宿(JR品川駅前)で3月9日正午過ぎから一斉行動を行います。川崎宿を過ぎて3番目の神奈川宿の「九条の会かながわ」は早々と取り組みを決め、HPを立ち上げる準備を進めています。

静岡、愛知、滋賀とそれぞれの宿でも横断幕を掲げ宣伝ビラを配布して一斉行動に参加します。なんととってもト리는京都・

三条大橋です。憲法9条京都の会は昨年末に3000万署名を38万1046筆まとめており、「三条大橋共同アクション」として「東海道五十三次 いっせいアピール」の掉尾を飾ってくれることでしょう。

堪忍袋の緒がきれた！「戦争する国ゴメン—政治を変えよう！」 会員みなさんの支援と参加を期待します。(芳尾孝次・新聞OB「九条の会」事務局長／『新聞OB「九条の会」』第112号)

署名目標の達成めざし交流会

【愛知県／あいち市民アクション】 安倍9条改憲NO！あいち市民アクションは17日、安倍改憲ノー3000万人署名を推進するため、名古屋市中区で「地域アクション学習会・交流会」を開催しました。地域の団体代表ら120人が参加。73万9198人分の署名が集まったことが報告されました。

共同代表の大脇雅子弁護士は、「請願権を自発的、自覚的、組織的に行使する運動として、3000万人署名を組織していかなきゃいけない。改憲発議を止めることに全力集中しよう」と話しました。

3000万人署名に取り組む諸団体がスピーチ。きよす9条の会の安島さんらは、かぶりものやキャラクター看板を持って登場。「スタンディングや署名は地味になりがち。まず注目を集めて対話している。後悔しないため、思いついたことはみんなの力を合わせてとにかくやってみる」と話しました。いのちを守る昭和区市民アクションは2017年結成いらい週刊ニュースを62号まで発行したと報告。瀬戸市民アクションは「署名を通じて満州やサイパン、熱田空襲などの

戦争体験者に会えた。二度と戦争をしないためにも必ず署名を成功させたい」などと語りました。愛敬浩二名古屋大学大学院教授が「安倍改憲をどう止めるか」と題して講演。「なぜ平和が大切か、自分の言葉で語ることが大事。国民投票させない、改憲発議させないために何ができるのか、日々考えてほしい」と呼びかけました。

署名の担い手広げ目標達成へ

【富山県／「9条の会」富山県連絡会】

富山県連絡会は16日、富山市内で3000万人署名促進交流集会を開き、15の地域「9条の会」代表が参加し、憲法をめぐる情勢や署名の意義、各地の取り組みや教訓を学び合いました。

9条ファンクラブの長谷川一氏が情勢報告。自民党改憲案を国会に提出させていない世論と改憲反対の市民運動の力を評価しつつ、安倍首相は改憲をあきらめておらず、「今年は決戦の年」と位置付け、専守防衛をかなぐり捨て軍拡を進めていることなどを明らかにしました。署名の担い手を広げ、通常国会での改憲発議を許さず、野党共闘の力で参院選を勝利し、安倍内閣を退陣さようと呼びかけました。

活動交流では「毎週地域を決めて活動し、9条署名は3368人、核署名は5000人を超える。学習会や憲法カフェを真似している。署名の際は相手をリスペクトして論争しない。よく話し合うことが大事」(小矢部9条の会)、「月2回地域を決めて入っている。お互い話し合うことが大事で要求や市政の不満などが次々出てくる。スタンディングも72回になる」(高岡地区9条の会)、「団

地を中心に月1回、チラシを2～3日前に入れ、2人1組で入る。これまで14回行動した。出された疑問・質問を出し合って学習会もやっている」(入善9条の会)などの発言がありました。

勤労統計不正に怒りの声も

【静岡県／オールしずおかアクション】

戦争法廃止オールしずおかアクションは静岡市葵区で宣伝しました。

アクション代表の林克氏、「安保法制に反対する静岡大学有志の会」の林弘文氏らは、安倍9条改憲反対署名への協力を呼びかけ、憲法違反の戦争法廃止、改憲反対の一致点で力をあわせようと訴えました。

「頑張って」と声援を寄せた56歳の女性は、「勤労統計の不正など考えられないこと。以前は国のやることを信じきっていたが、今は信用できない。ばく大な軍事費より、災害対策や生活に苦しんでいる弱者のために税金を使ってほしい」と話しました。

実行委員会つくり学習講演会

【鳥取県西部／西部9条の会等】鳥取県西部の9条の会、安保法制反対の会、高教組など23団体は11日、米子市で憲法講演会を開き約80人が参加しました。東京慈恵医科大学教授の小沢隆一氏が「アベ9条改憲阻止と私たちの課題」と題して講演。

小沢氏は、自民党改憲案を国会に出させない世論と野党共闘の力を評価したうえで、安倍首相は改憲をあきらめておらず、今年が正念場だと強調しました。

自民党の9条改憲案は日米の軍事協力を念頭に書かれており、「必要最小限度」では

ない実力組織としての自衛隊を保持しようしていると解明。「必要な自衛の措置」を可能にすることで9条2項を死文化し、集団的自衛権の行使に道を開くことを狙っていると述べました。

地域全戸訪問で元気もらう

【群馬県前橋市／南橋地区市民アクション】

南橋地区市民アクションは、昨年11月24日、12月8日、今年1月12日、1月26日と、これまで4回の3000万署名行動を行い、39人参加。計134筆を頂きました。構成団体の一つ南橋地区9条の会は、昨年11月より毎週水曜日に地域全戸訪問を実施。11回の署名活動に延べ33人が参加して、署名は100筆を集めました。その結果、南橋地区九条の会としての署名数は累計で2033筆になりました。署名活動に参加された会員の感想をご紹介します。

○Mさん女性…「戦争する国づくりはゴミメンだ」という事で、快く署名して下さった方が多かったです。署名に応じていただけなかった方も、「では9条改定に賛成なのか？」というのと、そうではないようでした。そもそも、国民の間には憲法を改定しようという機運などないのだと感じました。

○S氏…1月12日、南橋九条の会会員GさんとAさんと私の3人で、南橋団地を回り署名活動を行いました。今回も快く署名に応じてくれる人や、ねぎらいの言葉をかけて下さる人びとに出会い、私たちの方がとても励まされました。そして安倍改憲が目前に迫りつつある今、「もっとペースを上げて署名活動に取り組みねば！」と強く思っています。(「南橋地区九条の会ニュース」No117)